

氏 名	片山 聡
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6796 号
学位授与の日付	2023 年 3 月 24 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Accuracy and Clinical Utility of a Tumor Grade- and Stage-based Predictive Model in Localized Upper Tract Urothelial Carcinoma (限局性上部尿路上皮癌診断における、tumor grade, tumor stage による予測モデルの臨床的有用性の検討)
論文審査委員	教授 山元英崇 教授 安藤瑞生 教授 柳井広之

学位論文内容の要旨

欧州・米国のガイドラインでは、低リスク上部尿路癌(UTUC)に対して腎温存手術を推奨しているが、その適応基準は厳格であり狭く、再考する必要がある。low grade, low stage UTUC に、ガイドラインが推奨するリスク因子を追加する意義について検討した。tumor grade, stage のみを含む予測モデル(GS モデル)とガイドラインの推奨モデルの、限局性 UTUC 予測の精度について、国際多施設データベースを用い比較検討した。2000 年から 2016 年までの、術前尿管鏡検査後に腎尿管全摘を施行した 560 例を対象とした。多変量ロジスティック回帰分析で、他のリスク因子はいずれも localized UTUC の独立した予測因子ではなかった。3 つの予測モデルのうち、GS モデルは最も高い感度、陰性的中度、精度を認めた。リスク因子追加により、感度・精度を低下させ、low risk UTUC 診断患者数の減少を認めた。GS モデルは許容しうる予測精度を有し、適応患者を増やすことが可能であった。症例ごとの優先事項を考慮する、リスク因子の重み付けアルゴリズム作成の可能性を示した。

論文審査結果の要旨

欧州・米国のガイドラインでは、低リスク上部尿路癌(UTUC)に対して腎温存手術を推奨しているが、適格症例を予測するモデルは確立されたものがない。

本研究では、腫瘍が限局性 UTUC である（腎温存手術の適応候補となる）ことを予測するモデルとして、独自に考案した GS モデル(組織学的グレードと病期のみを含む)と、欧州・米国ガイドライン推奨モデル(組織学的グレードと病期に加え、細胞診など他因子を含む)の差異について、国際多施設データベースに登録された 560 例を用い比較検討した。その結果、GS モデルは最も高い感度、陰性的中度、精度を示し、腎温存手術の適応症例の選択に役立つ可能性が示唆された。

委員からは、本研究が切除症例を用いた後ろ向き検討であること、組織学的グレードは診断者間によってばらつきが生じる可能性について指摘があった。本研究者は limitation に言及し、今後の前向き研究や臨床実装に向けた課題や展望について回答した。

本研究は、UTUC に対する腎温存手術の適応症例の選択基準について、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。